

巻頭言

地方からロールモデルを全国へ

福岡市長 高島 宗一郎 … 1

九経連活動報告

「九州から日本を動かす」新たな価値の創出に向けチャレンジ！

～「2021年度事業計画」を承認～

第162回理事会 … 2

企業ニーズと大学シーズのマッチングでさらなるベンチャーの振興を目指す

九州・大学発ベンチャー振興会議 … 4

『九州の美味いを、明日へつなごう。』

～九州の第一次産業応援クラウドファンディングのご報告とお礼～ … 6

日誌(3月) … 7

講演要旨

コロナ禍の世界と日本の進路を考える

元 外務事務次官(現 三菱商事(株)取締役) 齋木 昭隆 … 10

九州観光推進機構ニュース

感動と物語の九州—歴史と文化を掘り下げる蘊蓄の旅 62

霊地・聖地に祈る その〔2〕～その地に立つこと～ … 11

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～ ガンガラーの谷 … 13

九州・山口地域動向

… 14

表紙説明・スケジュール(5月)・新入会員企業(3月)

… 17

地方からロールモデルを全国へ



福岡市長

高島 宗一郎

新型コロナウイルス感染症は、世界中の社会や経済に大きな影響を与えています。全国的に人口減少が続く中、元気なまち、住みやすいまちとして、人口や税収が増加するなど、成長を続けてきた福岡市も例外ではありません。一方で、新型コロナウイルスをきっかけに、働き方やライフスタイルなど生き方そのものが見直されるようになり、人々の価値観や社会のニーズにも大きな変化が生まれました。

これからは新型コロナというピンチをいかにチャンスに変えていけるかが重要です。福岡市では、まちや行政サービスをアップデートするチャンスとして捉え、国際競争力が高く、感染症にも強い安全安心で魅力的なまちに生まれ変わらせていくための取り組みを進めています。

まず、民間ビルの建て替えを促進するプロジェクト「天神ビッグバン」や「博多コネクティッド」において、新たに「換気」や「非接触」「身体的距離の確保」「通信環境の充実」などの感染症対策の機能を誘導するインセンティブ制度の拡充を行いました。世界に先がけた感染症対応シティを実現し、他の都市にはない新たな価値を生み出していきたいと考えています。

さらに、こうしたハード面での機能更新に加え、高付加価値なビジネスを福岡市に集積させるためのプロジェクトとして、昨年、産学官による「TEAM FUKUOKA」を立ち上げ、国際金融機能の誘致に向け、オール福岡

で取り組んでいます。今年2月には、福岡市進出第1号となる、アジア有数の資産運用会社「MCPホールディングス・リミテッド」の主要拠点設立が発表されました。海外からの企業、優秀な人材、資金、情報などを集積させることで、地域経済の活性化や国際競争力の強化につなげていきます。

また、福岡市では、従来から「ノンストップ行政」の実現を目指して取り組んでおり、新型コロナの感染拡大を受け、この動きをさらに加速させています。昨年9月末には、全国に先駆けて、市単独で見直し可能な申請書類3,800種類すべてでハンコレスを完了し、11月には、「DX戦略課」を立ち上げるなど、デジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組みを強力に推進しています。

デジタル化によって、市民の利便性向上や感染拡大の防止を図ることはもちろんですが、これは、少子高齢化という社会課題に対応する鍵としての大きな可能性を秘めています。つまり、テクノロジーでできることはテクノロジーにまかせ、業務の生産性を高めるとともに、人的リソースを福祉など人のぬくもりが必要な分野へしっかりと充てていくための仕組みづくりにもつながるのです。

これからは東京一極集中から地方拠点都市の時代が変わっていくと確信しており、基礎自治体としての現場と、都道府県並みの権限を持つ政令市の役割と重要性はますます高まっています。さらに国家戦略特区で国の規制緩和も可能な福岡市には、さまざまなチャレンジができる武器とともに、大きな責任があると考えています。福岡市が成功事例をつくり、全国の自治体で展開可能なロールモデルを示すことができれば、国全体を最速で変えていけると信じています。

今、日本中が、一時的に元気がなくなっている状況かと思いますが、今年度のテーマは「とりもどせ元気！」です。今だからこそできるさまざまなチャレンジに取り組み、福岡、そして九州から元気を発信していけるよう全力を尽くしていきます。

「九州から日本を動かす」新たな価値の創出に向けチャレンジ！ ～「2021年度事業計画」を承認～

と き 3月23日(火)

第162回理事会

本年、本会は創立60周年を迎え、それに伴い2030年の九州のありたい姿を描く「九州将来ビジョン2030」を策定した。これからの10年間は、同ビジョンの実現に向けて、九州の課題を本会の役割やそれぞれの関連性に基づき優先的に取り組む項目に絞り込み、原則として3年ごとに「中期事業計画」を策定して、3ステップで取り組んでいく。

今回は、その第1ステップとなる2021～2023年度の「中期事業計画」とそれに基づく「2021年度事業計画」の主な取り組みをご紹介します。

※「九州将来ビジョン2030」は6月7日の定時総会にて公表し、7月号に掲載予定

2030年のありたい姿(九州将来ビジョンより)

共生・共感・共創アイランド九州 ～成長と心の豊かさをともに～

- | | |
|-----|--|
| I | 新たな時代の成長エンジン
～「九州から日本を動かす」気概と情熱で地域経済社会の先進モデルを確立～ |
| II | 心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ
～多様な人材を活かし、新たな価値創出を促す～ |
| III | 自立型広域連携アイランド
～九州のポテンシャルを活かし、強固な連携で成長と心の豊かさを支える～ |

中期事業計画(2021～2023年度)

- 基本方針 “九州から日本を動かす” 新たな価値の創出
- 策定の考え方 「ありたい姿」実現に向けた重要度や緊急度に鑑み、九州のポテンシャルを活かして、新たな価値創出やコミュニティ形成を優先して目指していく。
- 取り組み戦略と私たちのアクション

【戦略1】地域共創withコロナ

昨今のコロナ情勢において地域経済の回復が急務であることを踏まえ、まずは、コロナで大きな影響を受けている企業や産業の復興に資する活動を展開する。

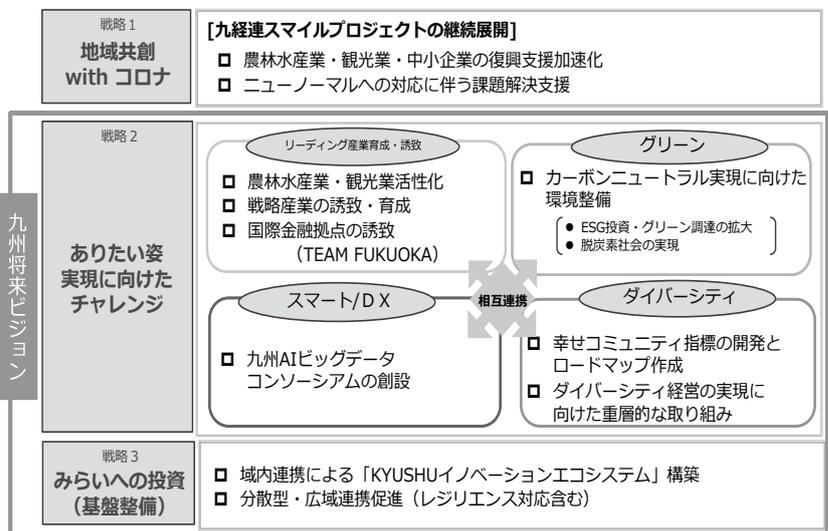
【戦略2】ありたい姿実現に向けた

チャレンジ

コロナ収束後速やかに成果が出せるように「リーディング産業育成・誘致」「グリーン」「スマート/DX」「ダイバーシティ」を大きな取り組みの柱として、ありたい姿の実現に向けて積極果敢にチャレンジしていく。

【戦略3】みらいへの投資(基盤整備)

成果が出るまでに期間を要する基盤整備については、2030年度の実現に向けた未来への投資として、現段階から着実に取り組んでいく。



「2021年度事業計画」の主な取り組み

■戦略1 地域共創withコロナ

1. 農林水産業・観光業・中小企業の復興支援加速化

- 生産者支援のための食品販売促進事業（クラウドファンディング等）
- 特定地域とのアライアンスによる「九州温泉未来図」事業の遂行
- 九州発アウトバウンドの活性化
- 海外販路の共通化、海外展開ノウハウのプラットフォーム構築

KPI：九州とRCEP参加国との貿易額5.8兆円

2. ニューノーマルへの対応に伴う課題解決支援

- 共助の輪をつなぐ施策の拡充

■戦略2 ありたい姿実現に向けたチャレンジ

1. 農林水産業・観光業活性化

【農林水産業】 KPI：輸出額1,400億円*

※九州の港等からの一次産品・食品輸出入額

- 「九州の食輸出協議会」を活用した生産者と地域商社のマッチング・販路開拓支援・商談会実施
- 中国・山東省や上海の輸入博覧会等出展による輸出拡大

【観光業】

- 「ツール・ド・九州・山口（仮称）」開催に向けた実務の遂行

2. カーボンニュートラル実現に向けた環境整備

KPI：アライアンス1件

- ESG投資の拡大に向けた環境整備
- 脱炭素社会の実現に向けた環境整備
- 再生可能エネルギーの産業化推進

3. 九州AIビッグデータコンソーシアムの創設

- 九州AIビッグデータコンソーシアム創設に向けた課題整理
- サイバーセキュリティ推進WGの運営
- サイバーセキュリティ地域コミュニティの拡大に向けた「地域SECURITY」事業への参画

4. 幸せコミュニティ指標の開発とロードマップ作成

- 幸福度指標の調査・研究による九州のありたい姿にふさわしい指標の検討
- 幸福度向上に向けた課題の洗い出しとロードマップ作成

5. ダイバーシティ経営の実現に向けた重層的な取り組み

KPI：女性活躍の課題に関する体系的な整理

- 「KYUSHU NEXT」開催による課題抽出と解決策の共有
- WE-Netとのアライアンスによる女性活躍課題の抽出
- 国・自治体連携による待機児童問題の課題抽出
- 女性活躍ロールモデルの定期的な情報発信

■戦略3 みらいへの投資（基盤整備）

1. 域内連携による「KYUSHUイノベーションエコシステム」構築

【企業と連携】

KPI：企業×ベンチャーマッチング10件

- 会員企業×ベンチャーの適時マッチング支援
- FGN^{*1}、KVM^{*2}、StartupGoGoと連携したオープンイノベーション支援

※1：Fukuoka Growth Next

※2：九州・山口ベンチャーマーケット

【スタートアップ】

KPI：グローバル拠点都市3.8億円、推進拠点都市1.8億円（申請額）

- 拠点チームメンバーとして、産学官連携によるスタートアップ企業の創出・成長支援
- JST^{*}拠点都市環境整備型プログラムへ外部協力機関として参画。主幹機関とともにプログラムの遂行・支援

※科学技術振興機構

- 九州の各大学シーズに対するGAP資金投入の拡大の支援
- 企業ニーズ×既存大学シーズのマッチング支援

【大学との連携】

KPI：先進事例の共有・展開3件

- 産学連携懇談会を通じた人材育成先進事例の発信・共有・展開
- #### 2. 分散型・広域連携促進（レジリエンス対応含む）

- 道州制に代わる新たな広域行政の全体構想作成に向けた関西広域連合事例調査等による課題の洗い出しと九州の方向性の整理

【地域政策部 伊豫田】

企業ニーズと大学シーズのマッチングでさらなるベンチャーの振興を目指す

と き 2月22日(月)

ところ 福岡市・アクロス福岡(Web併催)

出席者 65名

九州・大学発ベンチャー振興会議

代 表：石橋達朗九州大学総長、麻生泰九州経済連合会会長

構 成：13大学、10企業、12金融機関、6 経済団体

事務局：九州オープンイノベーションセンター、九州経済連合会

九州・沖縄地域の大学、産業界、地銀・VC等が連携して、大学シーズの速やかな実用化を支援し、大学発ベンチャーの振興を目指す「九州・大学発ベンチャー振興会議」が開催された。

5回目の開催となる今回は、2020年度活動報告(企業ニーズと大学シーズのマッチングフォローアップ状況)ならびに2021年度活動計画等について協議し、全て承認された。

[共同代表・来賓挨拶]

冒頭、同振興会議共同代表の石橋達朗九州大学総長より「今年で5回目を数える本会議は、大学と産業界が連携して大学発ベンチャーを育てていこうという全国でも画期的な取り組みであり、これまでにベンチャー企業が12社設立されている。今後も引き続き、大学は社会に役立つ研究シーズの提供を行い、産業界においてはこれらを事業化する支援をさらに加速していただきたい」との挨拶があった。



挨拶：九州大学石橋総長

続いて、来賓として文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課の斉藤卓也課長が挨拶され、「大学発スタートアップは、大学の人材・技術シーズを中心にアントレプレナーシップを持って行ってきたが、今後は社会に変革をもたらすイノベーションを起こす流れを作れるよう産学官一体となって支援をお願いしたい」と述べた。

[議事結果]

共同代表の麻生泰九経連会長が議長に選任され、以下の3つの議題について協議した。



1. 新メンバー参画

振興会議の新たなメンバーとして、北九州市立大学、九州産業大学、第一生命保険(株)、大坪GSI(株)の参画が承認された。

2. 2020年度活動報告

事務局より2020年度活動報告を行った。その中で、11大学より提案のあったシーズ19件に対し、総額4,300万円(産業界、大学が各2,150万円拠出)のギャップ資金が拠出されたことを説明した。また、2020年度より初めての取り組みとして、企業ニーズと大学シーズのマッチングを行い、企業ニーズ39件に対して大学シーズ76件の提案があった旨報告があった。

その後、大学内のベンチャー創出体制・産学官協力の体制整備、企業ニーズと大学シーズのマッチングにより浮かび上がった課題等について討議を行った。

次に、各大学開催のビジネスプランコンテストの状況と、その九州大会と位置付ける「第20回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」の結果、また、ビジネスプランコンテストを契機とした事業化実績について10社が起業し、1社が起業予定であることを報告した。

3. 2021年度活動計画

2021年度以降の取り組みとして、以下2つの提案について協議し、承認された。

(1)2021年度ギャップ資金の取り組み

金額：最大8,400万円／年を目標

(内訳)

- ①大学 最大4,200万円
- ②振興会議メンバー 1,200万円
- ③九州オープンイノベーションセンター 1,000万円
- ④ふくおかフィナンシャルグループ

企業育成財団(キューテック) 最大2,000万円

(2)起業家教育の充実、「大学・企業共同研究会」設立

○起業家教育の充実について、各大学のビジネスプランコンテスト、九州大会、さらに全国大会を目指すにあたり、九州大会を中心に尽力する旨共有した。

○FFGベンチャービジネスパートナーズが実施している「FFGインキュベーションプログラムの実施状況」「長崎大学FFGアントレプレナーシップセンター」について、(株)FFGベンチャービジネスパートナーズから概略が説明された。

○九州・大学発ベンチャー創出に向け、産業界のニーズと大学のシーズに対し直接対話の場を設け、オープンイノベーションの動きを加速させる「大学・企業共同研究会」設立の提案があった。

九州・大学発ベンチャー振興会議メンバー (2021年2月末現在、敬称略)

	氏名	所属	役職
大学 (13)	石橋 達朗	九州大学	総長
	尾家 祐二	九州工業大学	学長
	兒玉 浩明	佐賀大学	学長
	河野 茂	長崎大学	学長
	原田 信志	熊本大学	学長
	北野 正剛	大分大学	学長
	池ノ上 克	宮崎大学	学長
	佐野 輝	鹿児島大学	学長
	西田 陸	琉球大学	学長
	松尾太加志	北九州市立大学	学長
	朔 啓二郎	福岡大学	学長
	下村 輝夫	福岡工業大学	学長
	榊 泰輔	九州産業大学	学長
企業 (10)	宮原 隆和	(株)エルム	代表取締役
	大坪 尚宏	大坪GSI(株)	代表取締役
	後藤 玄利	Kotozna(株)	代表取締役
	隈 扶三郎	(株)西部技研	代表取締役社長
	坂本 賢治	総合メディカルホールディングス(株)	代表取締役社長
	正田 英樹	(株)chaintope	代表取締役CEO
	清田 徳明	TOTO(株)	代表取締役社長
	金子 達也	トヨタ自動車九州(株)	代表取締役会長
	京谷 忠幸	(株)ピーエムティー	代表取締役
	小笠原 浩	(株)安川電機	代表取締役社長
金融 (12)	柴戸 隆成	(株)福岡銀行	取締役会長兼頭取
	谷川 浩道	(株)西日本シティ銀行	取締役頭取
	坂井 秀明	(株)佐賀銀行	取締役頭取
	森 拓二郎	(株)十八親和銀行	取締役頭取
	笠原 慶久	(株)肥後銀行	取締役頭取
	後藤富一郎	(株)大分銀行	取締役頭取
	杉田 浩二	(株)宮崎銀行	取締役頭取
	松山 澄寛	(株)鹿児島銀行	取締役頭取
	川上 康	(株)琉球銀行	取締役頭取
	山城 正保	(株)沖縄銀行	取締役頭取
稲垣 精二	第一生命保険(株)	代表取締役社長	
福田 知	(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ	代表取締役社長	
経済 団体 (6)	麻生 泰	(一社)九州経済連合会	会長
	貫 正義	九州経済同友会	代表委員
	竹島 和幸	九州経営者協会	会長
	藤永 憲一	九州商工会議所連合会	会長
	高木 直人	(公財)九州経済調査協会	理事長
	麻生 渡	(一財)九州オープンイノベーションセンター	最高顧問

※オブザーバー：九州電力(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、西日本鉄道(株)

【産業振興部 竹上】

『九州の美味しいを、明日へつなごう。』 ～九州の第一次産業応援クラウドファンディングのご報告とお礼～

募集期間 3月1日(月)～3月30日(火)

支援総額 6,723,500円(支援者：延べ617名)

参加事業者 海べ、一期屋(鳥越商店)、うしの中山、エイコー水産、オイスカ、おおやま夢工房、落水正商店、カスガ水産、がんじゅう、カミチク、白露酒造、対馬地域商社、トリゼンダイニング、ナンチク、南州農場、西鉄ホテルズ、西日本鉄道、日本フーズ、バクロ(尾崎牧場)、比嘉酒造、ひらまつ、福栄組合、ブルールーフジャパン、鰻楽、マル幸商事、萬坊、緑屋本店、宮崎空港ビル、ミヤチク、山之口畜産(30社、敬称略)

コロナ禍における、地域の事業者・生産者の支援や課題解決への協働の輪をつなぐ「九経連・スマイルプロジェクト」の一環として、昨年8月に続き、クラウドファンディング事業にチャレンジした。

新型コロナウイルス感染症拡大により、今なお大きな被害を受けている九州の第一次産業の生産者を応援し、九州の『美味しい』をこれからも楽しめる、明るい未来を子供たちに残したいとの思いから、私ども経済界が率先してより大きな動きをつくり出すべきと考え、再び、クラウドファンディングによる応援プロジェクトを立ち上げた。

今回のプロジェクトも、日本最大級のCF事業者である(株)CAMPFIREの「購入型CF」(募集期間終了後に返礼品を支援者に届ける仕組み)を活用し、九州・沖縄・山口の幅広い地域から30の事業者が参加した。



期間中、会員の皆様をはじめとする全国617名の方々からの6,723,500円ものご支援とともに、「皆様頑張ってください!」「九州がコロナに負けずもっと元気になることを祈っております!」といった温かい励ましのメッセージ

も添えられ、生産者にとって、大きな励みをもたらす結果となった。

こうした、人と人とのつながりから新たな支援者が生まれる取り組みは、将来の顧客獲得にもつながり、事業者・生産者の今後の生産活動を大きく後押しする源泉となるものと確信している。

本会では、今後も第一次産業の支援、生産者の応援に力を入れて取り組み、販路拡大、労働負荷の軽減等に寄与することで、第一次産業を魅力ある産業にし、次世代回帰、ひいては地方創生の受け皿となることを目指している。

さらには、自然の恵み・チャンスが多い九州から、明るい流れ・具体的な実績を作り出し、コロナ禍からの力強い経済回復を図るとともに、日本の再興と新たな成長に向けてさまざまな事業にチャレンジしていくこととしている。

プロジェクト期間中、多大なるご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

また、お知り合いへ幅広くお声かけいただいたり、励ましのお言葉をお寄せいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

【農林水産部 中山】

1 日(月) 【福岡市・九経連会議室(Web併催)】**国際委員会**

出席者：議事47名、特別講演会111名

喜多村田委員長(TOTO(株)会長)の開会挨拶の後、議事に入り、国際委員会の2020年度事業実績と2021年度事業計画(案)を事務局より説明。

続く特別講演会では、元外務事務次官(現 三菱商事(株)取締役)の齋木昭隆氏より「コロナ禍の世界と日本の進路を考える」と題し、2021年の世界を取り巻くリスクとその中で日本が果たすべき役割などについてご講演いただいた。

※本誌10ページに講演要旨を掲載

1 日(月) 【Web開催】**九州航空宇宙開発推進協議会第2回幹事会**

出席者：31名

今年度活動のまとめとして各推進プロジェクトの活動状況報告を行った後、九航協の取り組むべき課題と今後の事業について協議を行った。「内之浦射場活用研究会」については、研究テーマの実現・具体化のために、国への要望活動を実施することを説明した。

また、2022年4月に九航協が30周年を迎えることを契機に、将来ビジョン検討委員会(仮称)を立ち上げ、30年間の活動を総括するとともに、ビジョンと事業の方向性、次期推進プロジェクト等を検討し、決定することを提案し、2021年度の重点活動として実施することとした。

3 日(水) 【福岡市・九経連会議室(Web併催)】**第2回行財政委員会**

出席者：65名

谷川浩道委員長(㈱西日本シティ銀行頭取)の開会挨拶の後、北九州市立大学の南博教授より、2000年代以降の道州制を巡る主な動向の振り返りおよび今後に向けた論点の確認を行った。次に、㈱一平ホールディングスの村岡浩司社長より「ONE KYUSHU～地域発展とローカルビジネスの未来について～」と題してご講演いただいた。

続いて、両講師と石丸修平企画部会長(九州大学客員准教授)により「道州制に代わる九州の新たなかたち」をテーマにパネルディスカッションを行った。最後に、2020年度事業報告と2021年度事業計画案の審議を行い、承認された。

※次号(6月号)にて講演要旨を掲載予定

4 日(木) 【福岡市・九経連会議室(Web併催)】**第2回木造ビルの可能性を考える研修会**

出席者：50名

多くの九州産木材を利用した木造ビルの普及拡大を図るための研修会2回目は、建築士を対象に、木造ビル建築に係る諸技術の知見を深めるため、企業講師の方々による木材・製材、塗料、窓・内装、防音・遮音等木造ビルに適した商品や技術の説明および意見交換を実施した。

また、東京大学の腰原幹雄教授、桜設計集団一級

建築士事務所の安井昇代表より基調講演で「木造ビル普及拡大のためには多業種の連携が重要である」との説明を受け、2021年度は建築士ならびに多業種の木造ビル関係者の連携により、九経連が2020年度に発表した「九経連、木造ビル構造標準モデル」のブラッシュアップを通して、一般への木造ビル普及拡大に引き続き取り組んでいくことを確認した。

4 日(木) 【福岡市・福岡市科学館(Web併催)】**第2回資源エネルギー・環境委員会**

出席者：52名

瓜生道明委員長(九州電力(株)会長)の開会挨拶の後、社会保障経済研究所の石川和男代表より「『2050年カーボンニュートラル』を見据えた日本のエネルギー環境政策の方向性」というテーマでご講演いただいた。

また2020年度事業報告の後、2021年度事業計画について審議を行い、ESG投資やグリーン調達の拡大、水素、地熱、洋上風力など再生可能エネルギーの産業化、国への要望活動等を柱とする計画案について承認された。

10 日(水) 【福岡市・九経連会議室(Web併催)】**観光委員会第2回企画部会**

出席者：18名

2020年度事業報告および2021年度事業計画(案)について説明し審議を行った。事業計画については、九経連60周年ビジョンテーマから中期計画に基づいた基本方針を策定し、重点実施項目として九州・長崎IR誘致、観光事業を軸にした地方創生「九州・未来温泉郷」プロジェクト、「ツール・ド・九州・山口(仮称)」2023年大会開催に向けた具体的取り組みについて説明した。

議事終了後には、ワーケーションや特定大学の観光カリキュラム導入、西日本広域観光連携の推進について活発な意見交換が行われた。

10 日(水) 【福岡市・電気ビル共創館(Web併催)】**産業振興委員会**

出席者：47名

急遽6名の委員がオンライン出席、講師が東京からWeb講演という形での開催となった。コロナ禍等により一部遅滞となった2020年度事業報告、将来ビジョンを反映した2021年度事業計画(案)について審議が行われ、ご承認いただいた。2021年度の取り組みについては、産学連携強化、中堅・中小企業の生産性・付加価値向上および次世代リーディング産業の育成に委員の関心が集中した。

その後、東京大学大学院経済学研究科の藤本隆宏教授(ものづくり経営研究センター長)より「感染症・米中摩擦時代のデジタルものづくり戦略」と題してご講演いただいた。

なお、2月12日開催予定だった企画部会は、緊急事態宣言の延長により書面審議になるとともに、先進工場見学会は2021年度へ見送りとなった。

※次号(6月号)にて講演要旨を掲載予定

10日(水)

[Web開催]

タイ経済交流セミナー&個別相談会

出席者：67名、個別相談会3社

昨年11月に開催したタイセミナーの第2弾として開催。在福岡タイ王国総領事館のアッタカーン・ウォンチャナマース総領事による挨拶の後、タイ王国大使館経済・投資事務所(BOI東京事務所)のガノッポーン・ショーティパーン公使、JETROバンコクの高谷浩一アドバイザーより、タイへの事業進出ならびにビジネス環境に関する講演が行われた。

その後、若杉和哉(株)わかたむ代表取締役(株)葉秀苑森長経営企画室長、(株)清光社の藤田哲生執行役員海外営業統括部長より、タイ進出における体験談やアセアン近隣諸国への横展開に関する事例紹介があった。最後に(独)工業所有権情報・研修館の前山和夫プロデューサーより、知的財産の留意点や支援施策紹介があった。

セミナー後に開催された個別相談会も含め、在タイ王国の支援機関とつながる好機として、盛況のうちに終了した。



11日(木)

[福岡市・九経連会議室(Web併催)]

第2回再生可能エネルギー産業化推進委員会

出席者：28名

安浦寛人委員長(九州大学名誉教授)の開会挨拶の後、農林水産省九州農政局の松尾佳典食品企業課長より「農山漁村における再エネの地産地消推進に向けた情勢等」についてご講演いただいた。

その後、委員会議事に入り、委員会事務局および各実務者会議からの報告内容について審議した。特に、今回の委員会では、各委員から最新の再エネ関連の取り組みについて紹介いただくなど、活発な情報共有、意見交換が行われた。

15日(月)

[福岡市・九経連会議室(Web併催)]

第3回農林水産委員会

出席者：45名

陣内芳博委員長(株)佐賀銀行会長)の開会挨拶の後、2020年度活動実績の報告を行い、その後、2021年度の活動計画案および国への要望案について審議し、ご承認いただいた。

続く講演会では、最初に、当委員会の企画部会長で、トリゼンオーシャンズ(株)の河津善博社長より「鶏糞の活用による海の環境改善と水産資源の回復に向けた取り組み～これまでの実績と今後の実行戦略～」に、次に、農林水産省九州農政局の小林清史地方参事官より「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略～マーケットイン輸出への転換のために～」と題し、それぞれご講演いただいた。

16日(火)

[福岡市・TKPガーデンシティ博多新幹線口(Web併催)]

「コロナ下における働き方の多様化」セミナー

出席者：93名

財務省九州財務局の大津俊哉局長をコーディネーターとして招聘し、副業・兼業に関するセミナーを開催した。(一社)プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会の平田麻莉代表理事より「With/Afterコロナを生き抜く新たな人材活用の潮流」と題してご講演いただいた。

その後、副業人材を実際に活用した企業、現在活躍されている方、地方公共団体の活用事例、金融機関の取り組み事例を紹介した。さらに大津局長から、人材派遣型企業版ふるさと納税の活用や、ワーケーション・九州ジョブケーション構想についての説明および普及促進に向けた取り組みの紹介があった。

18日(木)

[国土交通省、財務省等]

下関北九州道路中央要望

要望者：9団体

下関北九州道路建設促進協議会(会長：麻生泰九経連会長)、下関北九州道路整備促進期成同盟会(会長：村岡嗣政山口県知事)など9団体は、国土交通省、財務省、自由民主党、公明党、山口県および福岡県選出国会議員に対して「早期事業化に向け、国と2県2市が協力のもと、環境影響評価(アセスメント)や都市計画決定の手続きを進めること」などについて書面による要望を実施した。

3月30日に国土交通省から、2021年度より「環境影響評価と都市計画決定に関する調査」に着手することが公表され、本道路の実現への事業進捗となった。

19日(金)

[Web開催]

情報通信委員会第2回企画部会

出席者：21名

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からWeb開催とした。2020年度の事業計画に基づき、ICT活用による課題解決支援、サイバーセキュリティ対策の普及啓発、産業振興に資するICT人材育成事業等、通年の活動実績について報告を行った。

その後、九州将来ビジョン、中期計画を踏まえた2021年度の事業計画案について事務局より説明。今後の取り組みである「ビッグデータコンソーシアム」「データ活用社会に資する人材育成」等について、部会委員との意見交換を行い、活動に盛り込んでいくこととした。

19日(金)

[Web開催]

海外展開支援施策説明会(EPAの活用セミナー)

出席者：52名

「欧州への販路開拓に向けた機会と戦略～EPAの活用方法と知的財産の留意点、先進事例～」と題し、セミナーを開催した。

日EU・EPAの効果やEU市場における消費者の食品への意識の変化、コロナ禍での変化などリアルな状況を知ることができた。また、鹿屋市の芋焼酎蔵を営む企業からは、「日本とその土地との文化の違い

を踏まえ、その土地で好まれるパッケージ作りや、現地で人気のあるお酒と共通点のある品種をPRしていくことでパリでの焼酎への関心を高めた」との事例が紹介された。

20日(土・祝) [Web開催]

第17回種子島ロケットコンテスト大会

参加者：40チーム

初のオンライン開催とした今大会では、全国から40チームが参加し、打ち上げ競技に替わる内容としてプレゼンコンテストを実施した。各チームは独創的なアイデアに基づき設計した機体について熱心に説明を行い、コロナ禍で課外活動に大きな制限がある中でも積極的に取り組んできた活動の成果を発表した。

あわせて行った講演会では、JAXA H3プロジェクトチームの森茂氏より「H3ロケットの開発最新情報」と題して貴重なお話をいただいた。最後に、各部門の上位6チームについて表彰を行い、ロケット部門ではものづくり大学の松明チーム、CanSat(衛星)部門では埼玉大学のヘキサゴンチームがそれぞれ優勝に輝いた。

23日(火) [福岡市・ホテルニューオータニ博多]

第162回理事会

出席者：23名

麻生泰会長を議長に、①審議員、諮問委員、顧問選任(案)②2021年度事業計画(案)③2021年度収支予算(案)を審議した。

新年度は、2030年の九州のありたい姿を描いた「九州将来ビジョン」および、2021～2023年度の「中期事業計画」に基づき、「九州から日本を動かす」気概で最重点施策に注力する。なお、事業計画は6月7日開催予定の第61回定時総会へ報告する。

※本誌2～3ページ「活動報告」に詳細を掲載

23日(火) [福岡市・ホテル日航福岡]

第10回九州・沖縄地方産業競争力協議会

出席者：33名

九州・沖縄の各県知事や企業経営者で構成する同協議会は、第10回会合を開催し、2021年度から5カ年の成長戦略について議論し、戦略を決定した。

2021年度からスタートする第2ステージは、これまでの戦略4分野(①クリーン②医療・ヘルスケア・コスメティック③農林水産業・食品④観光)の取り組みを継続するとともに、「SDGs」「先端技術」「働き方改革」「アフターコロナ」の視点を踏まえて方向性を策定した。これに基づき21のプロジェクトについても、運営項目やKPIの見直し等、再設定を行い推進する。

※次号(6月号)にて詳細を掲載予定

25日(木) [Web開催]

第2回情報通信委員会

出席者：66名

新型コロナウイルス感染拡大防止のためWeb開催とした。小澤正憲委員長(西日本電信電話(株)取締役九州事業本部長 福岡支店長)の開会挨拶の後、2020年

度の事業計画に基づき、ICT利活用による課題解決支援、サイバーセキュリティ対策の普及啓発、産業振興に資するICT人材育成事業等、通年の活動実績について報告を行った。次に九州将来ビジョン、中期計画を踏まえた2021年度の事業計画案について審議を行い承認をいただいた。

続いて、デロイトトーマツグループの磯俣克平ボード副議長より「デジタル人材育成と地域DX推進体制の必要性」と題してご講演いただいた。

26日(金) [福岡市・電気ビル共創館(Web併催)]

観光委員会

出席者：55名

石原進委員長(九州旅客鉄道(株)特別顧問)の開会挨拶の後、事務局より2020年度活動報告と2021年度事業計画(案)について説明し、ご承認いただいた。2021年度は、コロナ禍によって価値観が変容する観光事業の基盤強化により地域の活性化を図るとともに、九州観光の未来を見据え、「ツール・ド・九州・山口(仮称)」「九州・長崎IRの誘致」に重点的に取り組むこととしている。

続いて、(一社)九州観光推進機構より「九州観光目標について」報告した後、内閣府の陳内裕樹クールジャパン地域プロデューサーより「九州観光デジタル変革のすすめ方～コロナ禍をチャンスとした両利きの地域経営～」と題してご講演いただいた。

30日(火) [佐賀県基山町・基山町役場]

第2回きやま地方創生モビリティ研究会

出席者：14名

事務局で現在策定中の新たなモビリティ事業をメンバーへ提案し、事業内容と実現可能性に対するディスカッションをメインに行った。

事業プラン(案)は、基山町の地理的特性や地元関係者および研究会メンバーから聴取した意見を勘案し、学校・企業の送迎バスをはじめとした豊富な輸送資源を活用したスキームを検討している。ディスカッションでは、各メンバーからモビリティに関する情報提供があり、「町民の生活にどのような利便性をもたらすかを具体的に検証していく必要がある」等、さまざまなお意見をいただいた。

31日(水) [Web開催]

少子高齢化・雇用委員会

出席者：28名

2020年度活動報告および2021年度事業計画の審議が行われた。2021年度事業計画については、2030年の九州のありたい姿を描いた「九州将来ビジョン」の実現に向けての第一歩となる。特に「ダイバーシティ推進」については、当委員会の中核事業と位置付け中長期的に取り組むこととした上で、次の重点実施項目について説明後、了承が得られた。

①女性活躍推進のための重層的な取り組み実施②外国人活躍推進のための入り口整備③働き方、雇用の多様性の推進④男女出会い機会の拡大による婚活創出

コロナ禍の世界と日本の進路を考える

(2021年3月1日(月) 2020年度国際委員会での講演)

中国について

中国と日本は世界第2、第3の経済大国。互いに最大の貿易相手国でもあり、経済的に緊密な関係にある一方、世論調査における日本人の対中感情は、「関係は良い」との回答が約17%、「悪い」が約82%。

中国国防費公表分の伸びは過去30年間で48倍、直近10年でも2.5倍。中国の2020年度の国防予算は日本の4倍。そして尖閣諸島周辺での中国公船の活動。今や第2人民解放軍とも言える海警が、今年2月1日から21日までに行った日本の接続水域航行は19日間、領海侵犯も6日間。日本も節度ある対応を行っているが、より強硬な姿勢を望む声もある。

コロナ禍が世界にもたらしたもの

2月26日時点で世界の新型コロナ感染者数は1億1,296万人超。米国の死者数50万人超は、同国が近年経験した3度の戦争での兵士の死者数を上回る。

これがもたらしたものは大きく三つ。一つは「経済リスク」。失われたグローバリゼーションを取り戻し、世界は元に戻るのか？ 次に「社会リスク」。格差・分断・行き場のない怒りを解消し、再び統合できるのか？ そして「政治リスク」。本来政府の役割とは国の安全と社会の安定を確保すべきもの。それがかつてないほどに動揺し、権威主義と民主主義がせめぎ合っている。

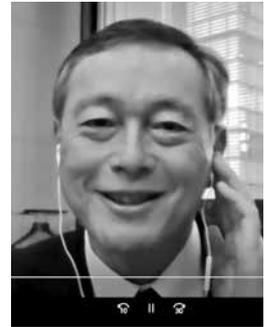
四次元の地政学から見た三つのリスク

本講演では特に日本にとっての三つの地政学リスクに絞り、「四次元の地政学」の視点を提案したい。これは私の造語であり通常は三次元。地政学における三次元とは、その国の政治・経済・社会の状況などを現時点の一コマで切り取り、立体的な角度から分析を加えるもの。対して四次元とは、これに歴史の流れ・時間軸という視点を加える。

①分断された米国 一つ目は分断された米国。先の大統領選、バイデン支持の約8,100万人に対してトランプ支持は約7,400万人、その差僅か700万人。この数字が米国の二分を象徴している。現在マスコミは新政権に対して好意的だが、期待を寄せる一方で具体的成果が見えない、政権運営の見直しを迫られる事態に陥れば、掌を返すように批判が高まるだろう。なお、具体的成果は2022年11月の中間選挙までに求められるもので、時間は限られている。外交面では傷ついた関係を修復中だが、成否はまだ未知数。中でも発展途上国との関係は注視したい。人権・民主主義を標榜する外交は、途上国にとってはある意味内政に係る問題につながる。米中関係については、中国は関係正常化を望んでいるはず。対する米国は香港問題・ウイグル族の人権問題などを背景に、厳しい態度で臨む姿勢。他方中国の目下の重

元 外務事務次官
(現 三菱商事(株)取締役)

齋木 昭隆



大関心事の一つが北京で開催するオリンピックの成功。ボイコットの動きに対してどう反応するのかに注目したい。

バイデン後の米国はどうか。高齢大統領に事あればハリス副大統領が職を引き継ぐ可能性がある。女性で非白人の大統領誕生を受け入れる心の準備が有権者の中にあるのか、特にトランプに票を投じた人々の中に。

②覇権の道突き進む中国 次に中国。今後中国は二つの100年という重要な節目を控える。今年共産党結成100年の年。次の100年は2049年、建国100年を迎える。これらはいずれも共産党の歴史的成果を誇るもの。中国が語る夢とは、一言でいえば富国強兵。「中国は“立ち上がり”、“豊かになり”、“強くなる”」という首脳演説には、かつて列強に蹂躪された屈辱を糧に、チャイナ・アズ・ナンバワンを目指す習近平指導部の決意が表れている。

非常に気になるのが台湾問題。台湾は元々中国の一部、これを取り戻すことは民族の目標であり指導者としてのレガシーにもつながるため、そこには相当に強い意志が働く。また今般の新型コロナへの対応しかり、中国モデルへの礼賛に対して途上国はこれを受け入れるのか、自由主義・民主主義の道を選択するのか。二つの異なる体制間の競争が、経済・ハイテク分野・軍事ひいては宇宙開発競争にまで及んでいるのが現状だ。

③不安定な朝鮮半島 最後に朝鮮半島情勢。北朝鮮は今大変な苦境にある。経済制裁・国境閉鎖・度重なる天災で国民の生活は困窮の度を深め、政権は正当性を主張する材料を失っている。南北関係では、融和路線を掲げる文在寅政権に対する北朝鮮の態度は冷徹なもの。これが続くか否かは今後の日韓関係・日朝関係に大きな影響を及ぼす。また、日朝間には拉致問題が膠着状態のまま横たわり、日韓関係においては外交諸問題に対する韓国政府の姿勢に日本政府は不信感を募らせている。

日本の役割は？

最も重要なのは自国の存立と国益を守ること。次に、自由・開放的・ルールを守る国際的枠組みを作りその中心に居ること。例えばTPP、日本主導のもと関係各国の利益にかなうネットワークを構築していくことは今後も重要となる。最後に、小さな国々、例えば太平洋の島々や東南アジア・アフリカの国々、これらは皆途上国。我々のなすべきことはこれらの国々に寄り添うこと。丁寧な声を聴いて、それにできる限り応えていくことが日本の果たすべき役割ではないか。

九州観光推進機構 ニュース

リモートFAMイベント開催しました

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、海外からの記者の招請が困難なため、九州の認知向上に有効な情報発信手段として、平戸城（4月より宿泊施設として開業）と由布院の玉の湯旅館より、米・英・仏の有力雑誌記者向けのリモートFAMウェビナーを開催しました。企画から取材・運営まで全て機構スタッフ自身で行う観光施設訪問型の生配信ウェビナーであり、初めての取り組みでしたが、現地のリアルな情報を届けることができ、参加メディアからも質問が相次ぐなど、たいへん盛況なFAMとなりました。

本取り組みが今後の記事掲載につながるよう、引き続き働きかけを行ってまいります。

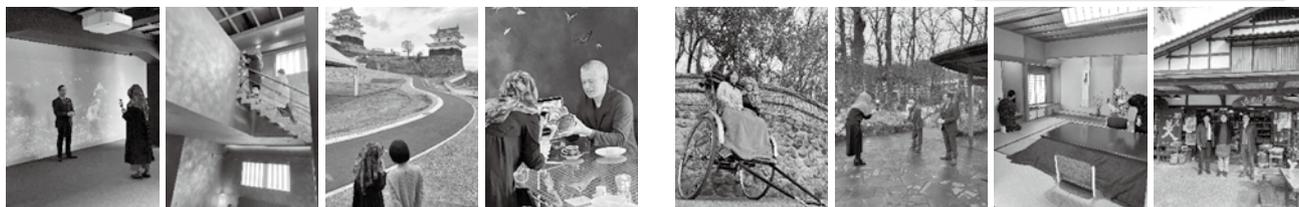
【開催日】

3月9日（火）@平戸城

市場	現地時間	日本時間
米国（東）	19:00~20:00	9:00~10:00
米国（西）	16:00~17:00	
フランス	10:00~11:00	18:00~19:00
英国	12:00~13:00	21:00~22:00

3月16日（火）@由布院

市場	現地時間	日本時間
米国（東）	19:00~20:00	8:00~9:00
米国（西）	16:00~17:00	
フランス	10:00~11:00	18:00~19:00
英国	10:00~11:00	19:00~20:00



①オープニング挨拶 ②平戸城の紹介 ③平戸城・懐柔橋の紹介 ④有田焼の説明 ⑤人力車での街並み紹介 ⑥由布院の紹介 ⑦玉の湯施設内の紹介 ⑧地元のお店紹介

【参加者数】 米国4社、英国7社、フランス6社

※レップを通じメディアを選定。情報の希少性を確保するため敢えて有力ジャーナリスト数名に限定。

【セミナーの内容】 あらかじめ機構スタッフが取材した観光素材（平戸、有田、由布院、阿蘇）の動画放映や関係者へのインタビュー等を実施

霊地・聖地に祈る その〔2〕

～その地に立つこと～

—大分県（国東市、豊後高田市、宇佐市、豊前市）、福岡県（添田町、宗像市、久留米市）—

今回のルートは修験の地を選んだ。

山の頂に修行の窟があり、御堂が建っている。そこに到るにはトレッキング並みの険しい地が多い。よじ登るのは大変だ。

しかし、麓の平坦地に「分院」があり、そこからも拝める。

宿坊を備え、座禅修行のできる地もある。

霊地めぐりは観光気分で行かないこと。山の神が怒る。古くからの御仏が鎮まっている。寺院はどこも「見せてください」でなくて「お詣りさせてください」が鉄則だ。

その地は修行のための地である。

かつては幾日もかかったそれらの霊地めぐりも、随分と楽な旅になった。

神、仏に近づく祈りの杖が団塊の世代に多くなった—。

山の霊地は多いが、海の霊地・聖地とされるのは意外と少ない。この度の旅は、まず海の聖地をとり入れた。代表格は宗像大社（三つ社がある）。遙か沖に浮かぶ沖ノ島は古くから女人禁制の島として知られている聖なる島だ。祭の日には、宗像大社から船で神職が祀りに赴く。途中の島・大島（中津宮が祀られる）までは定期便もあるからお詣りできる。

玄界灘の荒波の中に鎮まる神を拝み、直会の新鮮な魚料理が楽しみだ。

久留米の高良大社は森厳そのもの。神籠石が断続的に残っている。

1日目 大分空港(別府駅)→国東市【**文殊仙寺(宿坊・座禪)**、**両子寺(宿坊・座禪)**】→豊後高田市【**富貴寺、天念寺耶馬**】→宇佐市【**宇佐神宮**】→豊前市【**求菩提山(資料館)**】→中津市(泊)

2日目 中津市→添田町【**英彦山(神宮)**、**銅の鳥居、英彦山修験道館**】→宗像市【**宗像大社**】→福岡市(泊)

3日目 福岡市→久留米市【**高良大社**】→福岡空港(博多駅)→各地

2泊3日コース



みどころ

国東半島(国東市)

仁聞菩薩の伝説につつまれた国東半島は御仏の里で、今もなお庶民信仰の香りと土俗ゆたかな仏教の歴史を伝えてくれる。歴史への郷愁を十二分に満たしたいと思っている人は、ここ国東半島へ来るのが最もよい方法であろう。

国東半島にはもちろんトレッキングルート以外でも数えきれない程の人と歴史が作った芸術品(磨崖仏、仏像)が数多く存在する。その素朴な芸術品にひとつでも触れることができれば、またここに来たくなるはずである。



両子寺(国東市)

求菩提資料館(豊前市)

求菩提(くぼて)とは菩提を求める山の意で、山岳信仰の峰。英彦山と並ぶ修験道の山として知られる。

山麓には、如法寺や彩色壁画・薬師堂のある岩洞窟があり、麓から霊地の趣を示している。

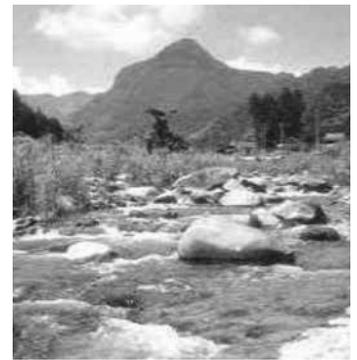


英彦山神宮(添田町)

山中には坊跡などが残る。全体として、昔のままの聖地といえる。麓の資料館でじっくり雰囲気味わえる。

英彦山(添田町)

出羽の羽黒山、熊野の大峰山と並ぶ日本三大修験道の山。修験道のメッカ。今も山中では行者たちの荒行が行われ、山伏姿の行者が通う。麓の英彦山神宮は女子や老人でも楽に参詣できる。佐賀藩主寄進の青銅の大鳥居、細川忠興公寄進の奉幣殿や雪舟が築いた庭園がある。



求菩提山(豊前市)

宗像大社(宗像市)

中津宮(大島)、沖津宮(玄界灘の沖ノ島)、辺津宮(田島)の三社からなる。沖ノ島からは古代祭祀神宝が多数出土し、すべて国宝・重要文化財に指定されている。中津宮は海運漁業者の信仰が篤く、辺津宮には宗像大神



高良大社(久留米市)

ご降臨の地と伝えられる「高宮祭場」がある。

高良大社(久留米市)

高良山の中腹に鎮まる。主神は高良玉垂命(こうらたまたれのみこと)と八幡大神(はちまんおおかみ)、住吉大神(すみよしおおかみ)の三座。今の神殿は万治3(1660)年の再建。高良山をとり囲む神籠石と呼ばれる石垣は、磐井の乱(527年)と関係があるといわれるが謎である。



宗像大社(宗像市)

九州観光推進機構のホームページ <https://www.welcomekyushu.jp> 「九州旅ネット」 も併せてご覧ください。

【本件問い合わせ先】(一社)九州観光推進機構(TEL:092-751-2951)

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)



ミス沖縄スカイブルー
岩本華奈

皆さま、はいたい！ミス沖縄スカイブルーの岩本華奈です。
今月は、沖縄本島南部南城市にある「ガンガラーの谷」をご紹介します。
日々、YouTubeやFacebook、Instagramを通して、沖縄の魅力をお届けしております。ぜひチャンネル登録&いいねをお願いします！

■「ミス沖縄公式YouTubeチャンネル」はこちら <https://bit.ly/2Fa1tIW>

新型コロナウイルス感染予防・拡散防止に取り組んでいます！



～ガンガラーの谷～

(南城市玉城字前川1202番地)

ガンガラーの谷は、数十万年前の鍾乳洞が崩れてできた谷で、谷に広がる大自然を専用ガイドと一緒に旅していきます。

集合場所である天然の鍾乳洞で作られたカフェ「ケイブカフェ」を通り抜けると、洞窟の中からは想像できない自然豊かな緑が広がり、鳥の鳴き声や心地よい風、川の流れる音など、沖縄の大自然を感じる癒やしツアーの始まりです。1時間20分のツアーでは、解説を聞きながら、良縁・安産への祈りがささげられる女性の洞窟である「イナグ洞」、命の誕生・成長を願う男性の洞窟「イキガ洞」を通り、大迫力の「大主ガジユマル」、古代人が生活していた痕跡残る洞窟など、生命の神秘を感じる太古の森の中を進んでいきます。

自然や沖縄、人類のことについて学ぶことができ、究極の癒やしを感じることできる「ガンガラーの谷」。沖縄の大自然と生命の神秘を感じてみてはいかがでしょうか。

ミス沖縄公式YouTubeチャンネルでもご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



【今月のおススメ】沖縄黒糖

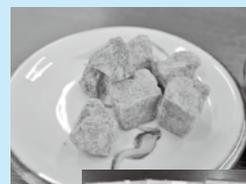
5月10日は「黒糖の日」。

沖縄では古くからさとうきびが栽培され、黒糖が作られてきました。昔から伝わる黒糖の製造方法は、さとうきびの汁を搾って、そのまま煮詰めるという方法です。

現在は、伊平屋島・伊江島・粟国島・多良間島・小浜島・西表島・波照間島・与那国島の八つの島で昔ながらの製法で作られています。

製造方法に大きな違いはありませんが、各島で大事に育てられたさとうきびは、島の土壌や天候、栽培方法などの影響を受け、黒糖の色や形、味、食感など八つの島それぞれ違った黒糖を楽しむことができます。

ビタミンやミネラル(無機質)を豊富に含んでいる沖縄黒糖。生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。



ミス沖縄紹介Webページ <https://www.ocvb.or.jp/activities/missOkinawa>
も併せてご覧ください。



皆さまへ沖縄の魅力をお届けいたします。



地域 動向

九州・山口

山口 Yamaguchi



ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ
—日本を夢見たヨーロッパ工芸 山口県立萩美術館・浦上記念館で開催

19世紀後半、日本の美術・工芸品がヨーロッパに流入し、日本の文物に人々が熱狂する「ジャポニズム」現象が起こった。「ジャポニズム」は、西洋の工芸品やデザインに影響を与え、その影響は当時の西洋諸国を席卷していたアール・ヌーヴォー様式にも見られる。ジャポニズムが流行のスタイルとなった一方、ヨーロッパ諸国の工芸美術館は日本の漆工芸や陶磁器を収集した。ブダペスト国立工芸美術館も1872年の開館当初から日本の美術品を積極的に収集してきた。

本展は、日本の美術がどのように西洋に影響を与えたか、そして日本美術を西洋がどのように解釈したか、その歴史をたどるものである。ジャポニズムとアール・ヌーヴォーをテーマに、ブダペスト国立工芸美術館の所蔵品から、ティファニー、ガレなどの名品とともに、ジョルナイ陶磁器製造所などハンガリーを代表する作品群を含めて約170点を紹介する。

開催期間：6月20日（日）まで

休館日：月曜日

（ただし、5/3、6/7は開館）

《問い合わせ先》

山口県立萩美術館・浦上記念館

TEL：0838-24-2400

ルイス・カンフォート・
ティファニー
《孔雀文花器》1898年以前



※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催期間、内容等が変更になる場合があります。最新情報については、山口県立萩美術館・浦上記念館のHPにてご確認ください。

福岡 Fukuoka



アンコンシャス・バイアスを正しく知ろう！

～性別や属性に関係なく誰もが自分らしく活躍できる社会を目指して～

突然だが、あなたにこんな考えはないだろうか？
「子育て中の女性に仕事の負担をかけるのは可哀そうだ」「事務的な仕事は男性よりも女性が得意だ」「男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ」

このような考え方は、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）から起きている可能性がある。

アンコンシャス・バイアスは、多くの過去の経験や

周囲の意見、日々接する情報から形成され、誰もが持っている。しかし、自身のアンコンシャス・バイアスに無自覚であった場合、判断の単純化や決めつけの助長を招くなど社会や企業活動に悪影響を及ぼす可能性があり、特に性別による固定的な役割分担意識は、ジェンダー平等を阻む社会課題となっている。

福岡県では、アンコンシャス・バイアスの認知と理解を広げていくため、啓発動画等を作成した。社内や団体内のアンコンシャス・バイアスへの気づきを促進するため、活用をお願いしたい。



《問い合わせ先》

福岡県女性活躍推進室

TEL：092-643-3399

アンコンシャス・バイアス
特設サイトはこちら→
（“思い込み”
あるある動画配信中）



佐賀 Saga



県庁にスポーツ情報発信スペース誕生！

スポーツの“情熱”“わくわく”“かっこよさ”を発信する『SAGA TRACK（サガトラック）』が県庁新館地下1階にオープンした。2024年に佐賀で開催される「国民スポーツ大会」「全国障害者スポーツ大会」（愛称：SAGA2024）への関心や参加意欲だけでなく、スポーツそのものへの関心をより多くの方々に高めてもらうことが目的だ。

ポイントは“スポーツ”にこだわった空間とデザイン。壁や柱にスポーツ感あふれるダイナミックなデザインが描かれており、SAGA2024の大きなロゴとともに存在感を醸し出す。さらに、床にデザインされた陸上トラックのラインは、県民一体で「SAGA2024」に向かっていく姿勢を表現。加えて、スポーツ関連映像が常に壁に投影されるなど、臨場感あふれる空間となっている。

他にも、大会を盛り上げるためのアイデアを投稿できる「IDEA2024」コーナーや、佐賀のオリンピックが使用したシューズやユニフォームのほか、1976年に開催された若楠国体関連の貴重なものが展示されるなど、佐賀のスポーツの魅力を発見できる仕掛けが満載だ。

斬新な空間デザインとともに、佐賀に関するスポーツの魅力や歴史に触れることができる「SAGA TRACK」に、ぜひお越しください。

《問い合わせ先》

佐賀県SAGA2024

総務企画課

TEL：0952-25-7322



長崎 Nagasaki



旅をためらう高齢者などのお手伝いをワンストップで支援します

長崎県では、ユニバーサルツーリズムを推進する民間団体への支援を通じて、高齢の方や障害をお持ちの方などの旅行相談をワンストップで対応する相談窓口「長崎県ユニバーサルツーリズムセンター」を今年1月、長崎空港内に開設した。

ユニバーサルツーリズムとは、年齢や障害の有無を問わず誰もが参加できる旅行を目指すことであり、昨年は市町と連携し、観光施設や宿泊施設など主要スポットのバリアフリー調査を実施した。

同センターでは、前述の調査で培ったノウハウを基に、観光施設や宿泊施設のバリアフリー情報を紹介し、車椅子やベビーカー等用具のレンタルも行っている。また、看護や介護のスキルを持つスタッフを配置しており、高齢の方などが抱える不安をヒアリングし、本県の旅を楽しんでいただくために必要な情報や介助者同行サービス・入浴介助などのサービスをオーダーメイドで提案することとしている。

本県は坂の街のイメージが強いと言われるが、ハード面のバリア（障壁）をソフト面で解消し、多くの方にその魅力を堪能していただきたいため、ぜひセンターに気軽に相談していただきたい（相談無料）。

【車椅子レンタル】※事前予約推奨

1,100円/日（税込）。2日目以降は、550円/日（税込）。

【入浴介助料金】

11,000円/回（税込）

※介助者1人の場合

《問い合わせ先》

長崎県観光振興課

TEL：095-895-2644

長崎県ユニバーサルツーリズムセンター

TEL：0957-46-3773

E-mail：info@nagasaki-ut.net



熊本 Kumamoto



熊本地震から5年・復興記念展 集う！麦わらの色紙たち —漫画家・尾田栄一郎氏直筆色紙6点特別公開—

2016年4月、熊本は2度にわたる大きな地震に見舞われた。その直後、熊本出身の漫画家・尾田栄一郎氏（『ONE PIECE』作者）は故郷に向け「必ず迎えに行く」という心温まるメッセージを発信。このメッセージを復興に向かう原動力に『ONE PIECE』と熊本県が連携した『ONE PIECE 熊本復興プロジェクト』が始動する。現在、県内各地で、「麦わらの一味」の銅像設置が進み、被災した地域の復興を後押ししている。

これらの銅像設置にあわせ、各登場人物のイラスト色紙を尾田氏が制作。色紙は熊本県に寄贈され、この度、熊本県立美術館で展示することとなった。

本展示は、熊本地震から5年を迎える熊本のさらなる「復興」を目指し、既に銅像が設置されたルフィ、サンジ、ウソップ、チョッパー、ブルック、フランキーのイラストを描いた直筆の色紙計6点を特別公開するものである。あわせて、熊本地震における県立美術館の被災状況と復興の取り組みについても紹介する。本展示が、復興のさなかにある県民の皆さんを勇気づけ、今後を照らし出すものとなれば幸いである。

会期：4月3日（土）～

6月20日（日）

《問い合わせ先》

熊本県立美術館 本館

TEL：096-352-2111

FAX：096-326-1512

<https://www.pref.kumamoto.jp/site/museum/>



©尾田栄一郎/集英社

大分 Oita



大分で働きたい若者を応援！就職情報サイト『FAVOita（ふぁぼおおいた）』開設

大分県は、県内の仕事情報や地域の魅力情報をスマートフォンで気軽に検索できるポータルサイト『FAVOita（ふぁぼおおいた）』を開設した。

昨今のコロナ禍においては、ウェブ上で就職情報を集める人が増加しており、就職活動を行った20代から40代を対象とした人材サービスに関する調査では、採用に至った経路として「求人メディア」が最も多くなるなど、就職活動のオンライン化が進行している。こうした状況のなか、本サイトは新しい生活様式のもと、「大分で働きたい」と考えている若者をサポートするために開設された。

求人・インターンシップ情報のほか、大分で働く先輩のインタビュー記事や企業紹介動画、各企業が直接自社の魅力について発信する企業ブログなどさまざまなコンテンツを配信。サイト名の『ふぁぼ』（＝『Favorite／お気に入り』を意味するネット用語）のとおり、求職者が気になったコンテンツを『お気に入り』として登録することで、自分だけのお気に入りリストを作成することができる。

今後はコンテンツの充実を図りながら、オンライン企業説明会などのイベントも開催予定。本サイトを通じて、若者と県内企業の接点を創出していく。

《問い合わせ先》

大分県雇用労働政策課

TEL：097-506-3340



宮崎 Miyazaki



本県初Jリーグチーム誕生！ 「テゲバジャーロ宮崎」

今年、宮崎県新富町および宮崎市をホームタウンとするサッカーチーム「テゲバジャーロ宮崎」が本県初のJリーグ参入を果たした。ここに至るまで、「Jリーグ百年構想クラブ」の認定やスタジアム整備など数々の要件をクリアして、昨年日本フットボールリーグ(JFL)で2位となり、ついに念願のJリーグ入りを実現。

この「テゲバジャーロ」というチーム名は、宮崎弁の「てげ」(すごい)に、スペイン語の牛(vaca:バカ)と鳥(pájaro:パジャーロ)を組み合わせた造語だ。牛と鶏(鳥)は畜産王国宮崎の誇り。「テゲバ」の愛称で県民から親しまれているこのチーム名には、牛のように勇猛果敢に突進し、鳥のように空高く羽ばたくという願いが込められており、チームのエンブレムにもそれらが描かれている。

ホームスタジアムとなる「ユニリーバスタジアム新富」は今年2月に完成した。およそ5千人を収容でき、客席のベンチシートや階段、2階、3階部分の床などには、宮崎県産のスギがふんだんに使用されている。球技専用スタジアムということもあり、天然芝のピッチとスタンドの距離が非常に近く、選手のプレーを間近に楽しむことができるのも特徴だ。3月には「テゲバ」の記念すべきJリーグ初めての試合が行われ、多くのサポーターで賑わった。

本県は毎年多くのJリーグチームのキャンプを受け入れているが、これまでは九州で唯一、Jリーグチームのない空白県だった。今後はこの「テゲバ」のJ3参入を、「スポーツランドみやざき」のさらなる飛躍につなげていきたい。



テゲバジャーロ宮崎 J3開幕戦
キックインセレモニー

《問い合わせ先》

宮崎県観光推進課
TEL: 0985-26-7108

れるメチル化カテキンを多く含んだ「べにふうき茶」など、豊富な茶種を生産している。

これからの季節は、お湯で入れるお茶より渋味が少なく、リラックス効果や免疫アップがあると言われる成分を多く摂ることができる水出し茶がおすすめ。

今後も、生産者・茶商等の関係機関・団体が一丸となって、①ドリンク原料や抹茶・紅茶など多様なニーズに応じた茶づくり②県内茶商が行う首都圏等での営業活動③海外輸出に向けた有機栽培茶の団地化や有機JAS認証取得④海外での商談会への出展支援などに取り組み、産出額に続いて生産量、品質でも日本一を目指す。

《問い合わせ先》

鹿児島県農産園芸課 TEL: 099-286-3200



沖縄 Okinawa



産学官連携で地域資源を活用した 製品を開発！

沖縄県では、県内ものづくり企業の競争力強化を図ることを目的に、県内企業を中心とした産学官連携等による、沖縄の地域資源や特性を活用した付加価値の高い製品開発への支援を行っており、これまでにさまざまな製品が開発されている(産学官連携製品開発支援事業)。

嘉永元年(1848年)創業の首里最古の蔵元である瑞穂酒造株が、本事業を活用して沖縄県工業技術センターおよび東京農業大学と共同開発した、クラフトジン「ORI-GiN1848」は、「一口で沖縄の魅力が伝わるクラフトジン」をコンセプトとし、“さくら酵母仕込みの泡盛”をベースに、西表島産ピーチパイン、シークワサー、月桃など沖縄県産素材10種類が用いられている。2018年の発売開始直後から国内外で高い評価を得ており、さまざまなコンペティション(IWSC2018、TWSC2019、IWSC2020等)での受賞を重ねている。同社が170年以上積み重ねた泡盛製造技術等と、沖縄の地域資源を活用して開発された「ORI-GiN1848」は、世代を超えて長く愛される商品となるべく今後も進化を続けている。

沖縄県内には魅力的な地域資源が豊富にあり、今後もこのような地域資源を活用した製品の開発が期待される。

《問い合わせ先》

沖縄県ものづくり振興課
TEL: 098-866-2337



鹿児島 Kagoshima



日本一を目指す「かごしま茶」

鹿児島県は栽培面積、荒茶生産量ともに静岡県に次ぐ全国第2位の茶産地である。2019年には、本県の茶の産出額は252億円となり、静岡県の251億円を抜いて初めて全国1位になったところである。品質面においても、おいしさを評価する「全国茶品評会」の普通煎茶10kgの部で17年連続「産地賞」を獲得している。

また、温暖で恵まれた気象条件により、緑茶をはじめ、抹茶や紅茶、花粉症のアレルギー抑制があるとさ

ホーストレッキングで阿蘇の自然を大満喫！ (熊本県)

熊本県の着地型旅行商品(くまもっと旅行社。)の中で人気の高い「ホーストレッキング」は、やまなみハイウェイの途中にある、約30万坪の敷地面積を誇る西日本最大級の牧場で体験できます。

世界一のカルデラを誇る阿蘇の大パノラマでの乗馬は格別です。

さまざまなコースが用意されているので、初心者の方からベテランの方まで安心して乗馬体験を行うことができ、引き馬では味わえない馬との一体感を楽しむこともできます。

また、敷地内にはアメリカ西部風の街並みがあり、レストランやホテルなどの施設も完備されています。

ぜひ皆さんも、雄大な阿蘇の自然の中でのホーストレッキングを楽しんでみませんか。



エルバティオ牧場(阿蘇市)

《問い合わせ先》

熊本県観光振興課 TEL : 096-333-2335

スケジュール(5月)

日(曜)	会合名等
10日(月)	第163回理事会(福岡市・グランドハイアット福岡)
19日(水)	第39回九州地域戦略会議(宮崎市・シーガイアコンベンションセンター)
28日(金)	佐賀地域委員会(佐賀市・ホテルニューオータニ佐賀)

新入会員企業(3月)

百坂農事サービス

専務取締役 百坂 友治

福岡県京都郡みやこ町勝山宮原578 TEL : 0930-32-2716 従業員数 : 25名(季節工員含)
事業内容 : 米苗・野菜苗の育苗および販売、農事作業一式請負

お知らせ : 本誌裏表紙に広告を募集します。詳しくは、本会総務広報部 (TEL : 092-761-4261) までお問い合わせください。

◆九経連ホームページ <https://www.kyukeiren.or.jp>

◆九経連メールアドレス info@kyukeiren.or.jp

月報・ホームページをご覧になったご感想やご意見をお寄せください。